

## かんのん劇場ご愛顧の皆さま

昨年おかげさまで20回目のかんのん劇場を無事終了することができました。これも皆さまのお力添えのおかげと感謝申し上げます。これを機にアンコールシリーズとして、これまでご出演いただいた演奏者の皆さまに再び出演をお願いすることとなりました。今回は8年前においていただいた音楽ユニットの《ラビィサリ》をお招き致しました。アラブ音楽を中心に様々なジャンルの音楽を届けてくれる《ラビィサリ》と共に秋の夜のひとときを一緒にいたしましょう。



### 《ラビィサリ》

松本泰子(ボーカル)、常味裕司(ウード)、和田啓(アラビックパーカッション)の3人のよって1998年に結成された、声・弦・打という最もシンプルな組み合わせのバンドである。作曲家でもある和田啓、シンガーソングライターの松本泰子の楽曲を中心に、アラブの古典楽曲や武満徹氏の楽曲なども手掛けている。透明感あふれる松本のヴォイスに、対を為すのは常味の凜としたウードの調べ。そこに和田のハンドドラムを駆使した鼓動が注ぎ込まれ、ラビィサリの音世界が広がる。日本各地でのコンサートのほか、ポルトガルヘルマニアツアーなど、その活動は広がっている。2014年3月3枚目となるCD「Rabisari III ~流れる雲を見ていた」をBeravoMusicよりリリース、7月にはiTunes Storeなど主なネット配信からもダウンロード販売も開始した。

## RabiSari

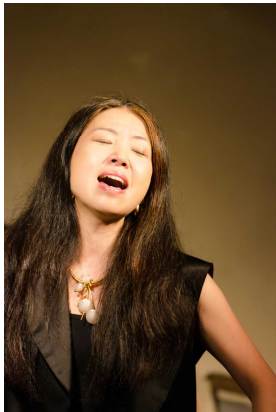
### 常味裕司 (ウード)

東京生まれ、日本では数少ないウード演奏家。スーダンのウード奏者ハムザ・エル＝ディン氏(2006年5月没)のもとで演奏法を学び、89年よりチュニジアへ渡りアラブ世界を代表するウード奏者 故アリ・スリティ氏(チュニス国立音楽院ウード科教授 [2007.4.5 没])に師事、本格的にアラブ音楽を学ぶ。93年のチュニジアでは、チュニス国営TV、メディナフェスティヴァルにてチュニジアの若手ウード演奏家モハメッド・ズィン・エル・アービディーン氏と共演。またチュニジアより来日した女性楽団「エル・アズィフェット」(アミナ・スラルフィー主宰)との共演。2006年春エジプト・カイロ オペラハウスにて現地ミュージシャンとコンサート開催(国際交流基金主催)、2006年末チュニジア・ドゥースにおける「サハラ・フェスティバル」に参加など、音楽を通じた文化・国際交流も盛んに行っている。日本においては、アラブ・トルコ古典音楽を中心にソロ活動およびアラブ音楽アンサンブル Farha (ファルハ) や Arabindia (アランビンディア)などを主宰し、様々な演奏家、舞踊家、パフォーマーと共演。2007年(4月～12月)放送のNHKスペシャル【新シルクロード 第2部】の音楽、録音にも携わる。アラブ各国大使館主催コンサート(チュニジア、サウジアラビア、エジプト、モロッコ、トルコ、ジブチ、オマーン、アラブ首長国連邦(UAE)、カタール、バーレーン等)での演奏、大使主催晩餐会では、皇太子御夫妻、秋篠宮御夫妻御前演奏を行うなど、在日アラブ各国大使などからも高い評価を得ている。



### 松本泰子 (ボーカル)

幼少の頃より教会に通い聖歌に親しみ、同じ頃ピアノのレッスンを受ける。十代半ばですでにシンガーソングライターとしてライブ活動を始め、ライブハウスなどで好評を博す。大学卒業後、伊藤君子氏に師事。ジャズヴォーカリストとして都内ライブハウスを中心に活躍。86年UCCジャズヴォーカル新人コンテスト特別賞受賞。90年を境に様々な民族音楽と出会う機会に恵まれ、セッションを重ね、その中から自分の生まれ育った風土をもう一度自分の声で表現しようとジャンルにとらわれず、日本の童歌・民謡をはじめアラブ古典、そして自らの作詞作曲によるオリジナル等も手掛ける。98年レク奏者和田啓、ウード奏者の常味裕司らと「RabiSari(ラビィサリ)」を結成。2000年夏初アルバム「RabiSari」02年秋「RabiSari II」をそれぞれリリース。03年、和田啓、ソプラノサクスの塩谷博之、マルンバの小松玲子らと「SohLa(そら)」を結成し、05年春、初CD「SohLa I」をリリース、同年「RabiSari」ポルトガルヘルマニア公演を成功させる。06年テアトル・ド・シーニュ「トロイラスとクレシダ」ノルウェー・フランス・イタリア公演にてヴォイスパフォーマンスを行う。07年南洋神楽プロジェクト「かぐやのものがたり」08年南洋神楽プロジェクト「龍の棲まうところ」に出演、09年(財)さいたま市文化振興事業団主催「スーパージュニアコーラス」演出・指揮を担当、同年12月「Luz Azul」(ルースアズール)によりCDをリリース。10年7月レバノン・ベイルート UNESCO ホールにて常味裕司・和田啓両氏とライブを行う。11年 Trinity(津軽三味線/高橋竹童・箏/丸田美紀・打楽器/和田啓)アジアツアーに参加、12年佐藤允彦(ピアノ)氏主催のランドゥーガ in スリランカに参加、13年常味裕司(ウード)主催 Farha 京都コンサートにゲスト出演、14年斎藤徹氏主催「うたをさがして」全国ツアー(乾千恵(物語・歌のことば)、斎藤徹(コントラバス)、喜多直毅(ヴァイオリン)、オリヴィエ・マヌリーヌ(バンドネオン)、ジャン・サスポータス(ダンス))に参加。また、ボイストレーナーとしての評価も高く、様々な演劇やミュージカル俳優のトレーナーを務めている。



### 和田 啓 (打楽器・作曲)

幼少の頃から学んだ江戸里神楽をもとに独自の音世界を表現をするアジア系ハンドドラム奏者。特にアラブ古典音楽において重要な位置を占める打楽器レク(アラビックタンバリン)は、エジプト・カイロにてハニー・ベダールに師事し、メイン楽器として演奏している。自ら主催するグループとして、ボーカルとウード(アラブの弦楽器)によるトリオ「RabiSari」(ラビィサリ)、ウード・バイオリンとのトリオでのエスニックフュージョングループ「Musiqa Badr」(ムスィーカ バドル)などのほか、常味裕司アラブ音楽アンサンブル「Farha」(ファルハ)をはじめ様々な音楽シーンをサポートしている。2006年3月国際交流基金の招聘により常味裕司氏とのエジプト公演を果たし、2009年ノース・シー・ジャズフェスティバルに佐藤允彦氏率いる「SAIFA(サイファ)」のメンバーとして出演。など、海外での公演も多い。また、作曲家としての近年の主な作品には04年劇団四季「南十字星」、劇団青年座創立50周年記念公演「諸国を遍歴する二人の騎士の物語」(演出/伊藤大、森塚敏ほか)、05年映画「ガラスの使徒」(監督/金守珍、山田純大ほか)06年「山月記」(演出/萩原朔美、主演/中村京蔵)07年「マクベス」欧州4カ国公演、「ドン・キホーテ」(SPAC、演出/原田一樹)09年「ベリクリーズ」(演出/ニコラス・バーター)、「アンネ」(劇団ひまわり、演出/山下晃彦、脚本/横山一真)、2011年ミュージカル版「モモ」(ミヒャエル・エンデ作、劇団ひまわり)、劇団ひまわり60周年記念公演「着い妖精とピノッキオ」(中島朋子、馬場敏、加藤清史朗ほか)、2013年能登演劇堂ミュージカル「たぬぎ御殿」(演出/原田一樹)、2014年俳優座70周年記念公演「四谷怪談」等がある。

2009年度より船橋市文化芸術ホール芸術アドバイザーも務めている。

